別紙様式２：エネルギー自立地域づくり計画書概要

市町村名：長和町

対象地域：和田地区 野々入(ののいり)区、久保(くぼ)区※計約180世帯　計画名：**地域エネルギー防災モデル(野々入モデル)創出事業**

取組の背景

本地域は、豊かな水資源に恵まれ、**農業を中心に暮らしや生業が育まれてきた**中山間地域である。一方、**人口減少や高齢化の進行により、営農環境や集落機能の維持**が課題となっている。こうした中、**地域を支えてきた農業用水路**に小水力発電のポテンシャルが見出されたことから、**小水力発電を核として**、脱炭素の推進に加え、**防災力の強化や地域活性化を一体的**に進め、**持続可能な中山間地域づくり**を目指す。

取組の内容

	①民生部門の電力消費量	②省エネによる電力削減量	③電力消費量（①－②）	比較	④再エネ生産量
現状	77.8万kWh	-	-	＞	0万kWh
計画	77.8万kWh	1.0万kWh	76.8万kWh	＜	125万kWh

スケジュール	2026年度(R8)	2027年度(R9)	2028年度(R10)	2029年度(R11)
小水力発電設備設置工事	→	→	→	運転開始
EV・蓄電池の導入、LED・空調設備工事			→	
総事業費	約5.4億円　うち小水力発電設備整備：４.2億円（県費１億円活用）			

2030　2050

①民間企業を誘致し、小水力発電設備を導入（事業費：4.2億円）
(125万kWh・地域内電力需要を上回る発電量)　※20年間FIT売電

売電収益等を活用
※設備整備等は将来の収益見込を財源に発電開始前（～R10）に実施

②災害時のレジリエンスを強化（事業費：0.4億円）

- 発電所に**急速充電設備を設置**し、車載型蓄電池（EV）を介し、発電電力を**指定避難所へ給電**
- **一時避難所**である２公民館へ太陽光発電設備・**定置型蓄電池を導入**
- 上記に加えて、避難所の**LED化や高効率空調機器**の導入を進め、省エネルギー化を推進

③地域の課題解決・活性化（事業費：0.8億円）

- **農業用水路等の機能保全・改修**を行い、継続的な営農環境を構築
- 発電設備設置場所である**「夜の池(よのいけ)」※の遊歩道を整備**し、観光資源化※町指定文化財
- 発電所の説明看板を設置し、地元の**子どもの再エネ理解促進**や**観光客向けPR**を実施

④左記取組を端緒に、町内全域に取組を波及させ、面的に展開

- 町内の有望地点※における、**新たな小水力発電設備の導入**
  ※現時点で男女倉(おめぐら)川など、町内に３カ所存在
- **地域新電力の設立**も視野に、FIT終了後の電力の地域内活用に向けた**体制作りを検討**
- 発電所と公共施設・避難施設との**自営線接続も視野に**、防災・レジリエンスを更に強化

エネルギー自立地域の達成（２０５０ゼロカーボンの達成）